

子どもたちは夏休みでも…先生は真剣に“勉強”

授業に生かしたい

アイヌ民族の伝統文化学ば



市内の教職員を対象にしたイオル体験事業「子ども達に伝えたいアイヌ文化講座」が8月2、3日に白老コミセンで開催され、教員約40人が、アイヌ民族の伝統文化を熱心に学びました。町、町教委が主催、白老モシリが主管。

指導法や授業への導入展開を考えた全5講座。イオル事務所チキサニの森洋輔学芸員と白老モシリの会員が先生役を努めました。座学では森学芸員が、アイヌ文化を学ぶ意義などを説明。その後はムックリ制作や古式舞踊、刺しゅう、調理、木彫と、さまざまな体験を通しアイヌ文化の一端に触れました。ムックリ制作を体験した網走の小学校教諭は「竹を削る作業は自分が思った以上に薄く削らなければならないので難しかった。子どもたちに自分が作ったムックリを早く見せたい」と話していました。

万が一に備え

救急救命学ば



町教委が町消防本部の協力で実施。小中学校教諭約90人が、子どもたちの緊急時に役立つ適切な知識や方法を学びました。

初日の7月27日は小学校3校の教諭30人が参加。同本部の救急隊員2人が講師となり、座学では子どもに多い「けが」「溺水」「窒息」への対応を学習。また教諭から質問が出ていた熱中症についてはその判断基準を示し、「基本的には119番を」としていました。

実技は心肺蘇生の胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAED、虫刺されや食物アレルギーなどによるアナフィラキシー反応に用いる自己注射薬・エピペンの使い方などの習得に真剣に取り組んでいました。参加教諭は「エピペンもそうだし、実際に使ってみて非常に参考になった」と話していました。

行きます、聞きます 提案します

商工会ふっとわーく

女性部員14人が7月19、20日、おもてなし交流事業の一環として木古内町を視察研修に訪れ、観光スポットの見学や現地の商工会女性部員との交流を行ってきました。

バスの中では木古内女性部員によるガイドを受けながら、郷土資料館の見学や鶴岡禅燈時寺を散策したほか、同町の伝統行事「寒中みそぎ」の水ごり体験。木古内女性部員が和太鼓の演奏で盛り上げ、本物の修行者から水を浴び、その威勢のよさに歓声が沸きました。

夕食懇親会では、木古内町の特産品をいただきながら、町長、商工会会長、観光協会会長なども参加するなど町を挙げての歓迎を受

学び多かつた木古内町視察研修

け、木古内女性部長の「今回の研修で日々の疲れを癒し、英気を養ってほしい」との言葉通り、心尽くしの温かいおもてなしに感動しました。

今回の視察研修で学んだことを、私たちのおもてなし交流事業に生かしていきたいと思



(白老町商工会 しらおい経済センター内 ☎82-2775)